



求める児童像

- 進んで学ぶ子
- 思いやりのある子
- がんばりぬく子

「やるべきこと」をやる子にする

「やるべきことをやったの?」「何度言ったらわかるの?」「やるべきことをまずやってから遊びなさい」……。

今日もまた、このような言葉があちらこちらの家庭で発せられています。いや、教室でも同様です。子どもたちに「やるべきこと」をやらせることは、思ったより難しいことです。

特に、小学校段階の子どもの行動の定着のためには、

- | | |
|------------------|----------------|
| ・ どうしてその行動が必要なのか | ・ 行動すべき中身は何なのか |
| ・ どの順番で行動すればいいのか | ・ いつまでにすればいいのか |



等が子ども自身に十分理解できていなければなりません。

さらに、「それをしないと叱られる」というマイナスよりも、「それをしたら気持ちがいい」という向上的な心理を掻き立て、刺激するほうが、より効果があるといわれています。

口で何度も叱っているだけでは、効果はなかなかあがりません。

むしろ、子どもとの持久戦の様を呈したとき、「大人が待てない」→「イライラする」→「叱る」→「子どもが動く」というサイクルの繰り返しで、「何度も」という言葉が大人から出てくる。

しかしそれはいつの世もそうです。私たちも子どもの頃、親から同様に言われてきませんでしたか?

躰（しつけ）として、わが子のことばや行動（言動）を、好ましい方向へ導くためには、ある意味、忍耐力が必要ですが、時には大人としての知恵を絞り、合理的な工夫も必要ではないかと思えます。

その一つとして、「見える化」があります。ある方の実践を聞きましたので紹介します。

- | |
|--|
| 1. 90cm×60cmのホワイトボードを縦に置き、真ん中にビニールテープを貼り、左と右に分ける |
| 2. やることカードは横書きで、帰宅後から寝るまでにやるべきことを書く |
| 3. やることカードをやる順番でホワイトボードの左側に貼る |
| 4. やったらカードを右に移す |
| 5. 次の日は右から左に移す ※ホワイトボードの代わりに冷蔵庫でも構いません。 |

やることのカードの内容は、例えば、「うがい・手洗い」「靴下を洗濯機に入れる」「ランドセルを机の横に置く」「お便りを母の席に置く」「給食袋を出す」「宿題をする」「片づける」「明日の準備」「予定表を母親に渡す」「歯磨き」「お風呂」「明日の服を出す」等です。やる順番に貼るので、一番上は「うがい・手洗い」、一番下が「明日の服を出す」です。

毎日やることを「見える化」することで、継続が可能となり、無視できなくなり、行動の定着に繋がります。「今できていなくちゃ、将来困るよ!」と指摘しても脅しても、なかなか子どもの中に入っていきません。大切なのは、「自発的行動を促し、習慣化させる」ということです。成功へのポイントは、「できたら褒める」。学校でも、各クラスの担任がその発想に立ちいろいろ工夫しています。

どうしてできないのか? その答えは、極めて難しい。大人なら、経験上みんな分かっています。

できないことを咎めるより、できるように仕向ける工夫が、今、私たち大人に求められているのかもしれません。もうすぐ夏休み。習慣化に向け、やるべきことをやる子に鍛えるいいチャンスです!